

大人も楽しめた えほんコンサート



9月1日から4日にかけて襲来した台風12号の影響で橋の一部が流失した中央橋（加茂町〜深瀬町）の災害査定が行われ、災害復旧工事費（国補助対象事業費）約1億800万円の認定を受けました。市は、これを受けて、工事実施詳細設計業務に取りかかり、平成25年3月末の完成をめざします。

なお、同区間は引き続き通行止めになっていますので、ご注意ください。



国の災害査定
を受ける

読書週間（10月27日〜11月9日）に合わせて10月29日に開催された「図書館まつり2011えほんコンサート」。コスモホールを埋め尽くす580人の親子連れが、見て、聴いて、感じての3拍子揃った舞台を堪能しました。

「えほん」というから子ども向け！と思いきや、実は大人にも楽しんでほしいコンサートでもありました。アンサンブル・バラダンのオーボエ担当・市川仁志さんは、「オーケストラのコンサートは、子どもの入場制限があるため、保護者の方に生演奏を聴いていただける機会が少ないのが現状です。えほんコンサートは、すべての方にウエルカムなコンサートなので、大人の方にも楽しんでほしい。」と話していました。

コンサートでは、クラリネットを練習する横で、どんどん大きくなっていく不思議な猫とクラリネット奏者との物語を描いた「ネコとクラリネットふき」や、母さん鳥が亡くなったことを知らずに帰りを待つむく鳥の子が、母さん鳥と出会う夢を見る物語「むくどりのゆめ」などが上演されました。来場者は、スクリーンに映し出される映像を眺めながら、朗読と生演奏で物語のイメージを膨らませていました。

本を読むのが大好きという辻岡総志くん（5歳・見能林町）は、「音楽といっしょにえほんを楽しめてよかったです。」と喜んでいました。

感情豊かな朗読で絵本の世界を楽しませた秋山雅子さんは、「言葉を通して元気になってほしいという思いを込めました。えほんに親しむいいきっかけになれば。」と話していました。

適応指導教室『ふれあい学級』 移転後、初の「ふれあい祭」を開催

旧橋公民館久保分館（橋町）から阿南市社会福祉会館（富岡町）に移転して初めての秋を迎えたふれあい学級。日ごろの活動の様子を発表したり、多彩な催しなどで交流を深める「ふれあい祭」が、11月2日、同会館で開催されました。

テーマは「きて、みて、ふれあい祭」。たくさんの人に「来て、見てほしい」と催した祭典では、大正琴や南京玉すだれ、皿回しなどを楽しんだほか、秋の果物を題材に絵手紙づくりを楽しんだりして交流を深めました。

長年、不登校児やひきこもりがちな子どもたちのそばに寄り添ってきた指導員の日根美野子さんは、「子どもたちは、人とのふれあいの中で心を開き、学習や体験活動を通じて学校復帰できるエネルギーを蓄えています。ここで新たな自分を発見して、次へのステップにしてほしい。」と願いを込めて指導に当たられています。今年9月には、ここを卒業した生徒から大学に入学したとのうれしい知らせが届き、感激したという日根さん。「ふれあい学級には、ふさがちな心を受け止めてくれる人がたくさんいます。ひとりで悩まず、気軽に相談してほしい。」と呼びかけています。

学習は、平日の午前9時〜午後3時までで、相談は5時まで受け付けています。

【問い合わせは】適応指導教室 ☎ 22-11250へ

場所は
阿南駅隣の
社会福祉会館
4階です



指導員の皆さん

施設の名称を改め 「かもだ岬温泉」で知名度UP

「わが町にも温泉を！」と、椿町船瀬に掘削ドリルが入ったのは今から12年前のこと。地下約1600㍍から湧き出した温泉は、41・4度の弱アルカリ性の療養泉でした。「普段着で楽しめる温泉」をめざして平成13年7月26日にオープンして以来、多くの方に愛され続け、平成22年11月7日には来場者が50万人に到達しました。

一方で、「船瀬（ふなせ）」という名前についての問い合わせや、四国最東端にふさわしい名称にしてはどうか、といった意見が多く寄せられ、開館10周年を迎えたことを機に、四国最東端の地“蒲生田岬”とともに温泉の魅力を伝えていこうと、11月1日から「かもだ岬温泉保養センター」として、新たな一步を踏み出しました。



地元の方と岩浅市長が晴れやかに除幕を行いました。(10月29日)

家族そろって心や体の健康について考えてもらうイベント「あなん健康まつり」が、10月30日、ひまわり会館などで開催され、小雨交じりの天候にもかかわらず大勢の来場者でにぎわいました。健康測定コーナーで骨密度検査などを受けていた湯浅芳子さん(柳島町)は、「健康チェックはこまめに行っていますが、骨密度や動脈硬化は測定したことがなかったののでいい機会になりました。」と話していました。

あなん健康まつりで 心と体の健康度チェック



父母にメッセージカードを送るようす。

また、人気を集めていた「がん検診受診率向上プロジェクト」のコーナーでは、がん検診を受けてほしい父母にオリジナルメッセージカードを送るうと、たくさん親子が詰めかけました。

午後からは、精神科医で立教大学教授の香山力さんによる「生きる力をつける処方箋〜ひとりひとりが輝くために〜」と題した講演会が行われ、「たまには自分を褒め、心にゆとりを持つことが大切。その心のゆとりが周囲の人への気づきを生み、ひいては自殺予防にもつながります。」と、ストレス社会における心の持ち方、身の置き方を訴えました。詰めかけた約900人の来場者は、時折、うなづきながら真剣に耳を傾けていました。

阿地莞汰さん(長生小2)



川柳
いもうどの
やわらかい手とかえるみち

川柳で文科大臣表彰

11月6日、京都府綴喜郡井手町で開催された「第26回国民文化祭・京都2011川柳の祭典」の小学生・中学生の部で、阿地莞汰さん(長生小2年)が、第一席にあたる文部科学大臣表彰を受賞しました。

妹を思いやるやさしさがあふれた句は、「家に帰った後の情景までも連想できるすばらしい句」と、選者から高い評価を受けました。

句を詠むことを3歳から始めた阿地さん。「表彰式は家族旅行も兼ねられるので、これからも頑張りたいです。」と、全国4244人(約1万8千点)で一番の笑顔を見せていました。



その瞬間が美しい
タイトルに込められた
カメラマンの思いに浸る

40回目を迎えた阿南市文化祭。今年も盛大に開催されました。11月3日、文化会館で行われた美術展では、移ろう季節の一コマや感動の瞬間を切り取った写真がずらりと展示され、来場者は臨場感あふれるダイナミックな写真に見入っていました。

茶会の休憩中に見にきましたという神野真優さん(15歳・下野町)は、阿南の夏まつりで灯された願いのペットボトルと幼児の笑顔を撮影した遠藤博敏さんの写真「メッセージ」(奨励賞受賞作品)を眺めながら、「忘れてはいけない1枚です。」と、被災地への思いを新たにしていました。